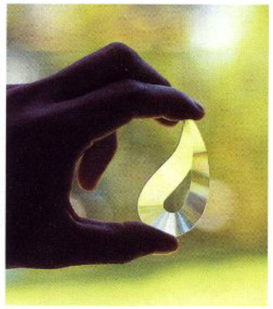
ものづくり

建築ステンドグラス

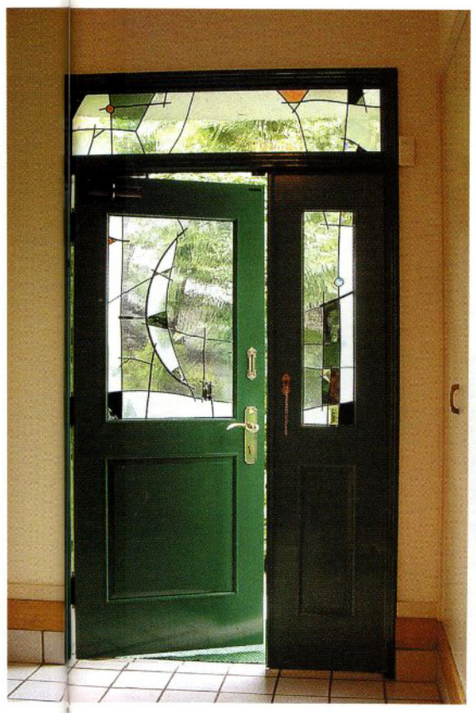
Glass Studio URUGA

日本の建築に合う繊細なステンドグラスを最高水準のガラス、技術でつくる

住む人が心地よく感じることを大切にした、植物、風、水、音など自然にあるものをシンプルに抽象化したやさしいデザインが特長



透明度の高い板ガラスを自ら研磨して加工する、手磨きならではの、美しい形が特長



最高品質のドイツ製アンティークガラスを使用したステンドグラスを、お客さまの要望、空間に合わせて完全オーダー制作。予算は20〜80万円／m²

「日本人の感性、日本のインテリア空間に合う繊細でやさしいステンドグラスをつくりたいと思い、工房を設立しました」

建築のオーダーステンドグラスに特化した工房Glass Studio URUGAの代表、宇留賀正輝さん（48歳）はこう語る。手がけるのは主に一般住宅やレストランなど商業施設のドア、窓、パーティション、サインなどに使われるステンドグラスだ。

ステンドグラスといえば、ヨーロッパの教会のように鮮やかな色をたくさん使ったものを連想するが、日本の住空間と合わせるとどうしても違和感がある。

「日本に合った"わびさび"の感性や、至近距離から見るという環境のため、丁寧な仕事で繊細なガラス表現が必要」というのがステンドグラス職人である宇留賀さんの持論である。実際、宇留賀さんが制作した東京・立川市にある日本聖公会聖パトリック教会のステンドグラスは、色数が少なく実に斬新なデザインだ。

宇留賀さんは打合せからデザイン、加工、制作に至るまですべて一人で行う。デザインは作品ごとにまっさらな状態からオリジナルで起こし、ガラスはドイツの職人が吹く"アンティークガラス"と呼ばれるクオリティーの高いガラスを使用。カットガラスの美しさ、繊細な鉛線の表情、過剰な装飾性を排除したオリジナルデザインがGlass Studio URUGAの作品の独自性、希少性だ。

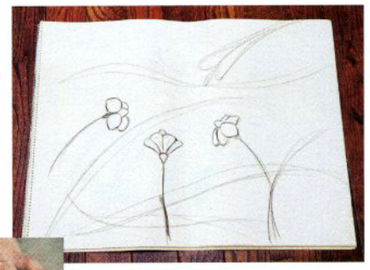
「設立して約18年、ステンドグラス一本でやってこられたのは、こういったものづくりの方法に共感してくださる方々のおかげです。手間はかかりますが、このスタイルは崩したくないですね」

クライアントの8割は口コミだが、最近はホームページをアップするなど、作品を多くの方に見て、知ってもらう機会を増やすようにしているという。また4年に1度のペースで個展を開催。

「個展は自分の創作意欲を再確認する場。アーティストとしての付加価値も高めることができればと考えています」

日差しや照明の光を通すことで、さまざまな表情を見せるのがステンドグラスの魅力。本物の工芸作品、世界でたった1枚の作品にこだわる熱い思いは、作品の1枚1枚が何よりも雄弁に物語っている。

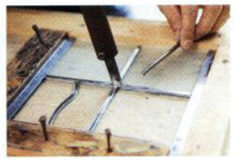
主な工程



❶最初にスケッチでイメージを膨らます

❷デザインの型どおりにガラスを切る。微妙な調整はガリという道具を使って行う

❸ガラスのパーツをケイム（溝のある鉛線）でつなげ、組み合わせていく。ガラスが動かないように端は木枠で固定



❹コテを熱し、ケイムの交わるポイントをはんだ付けする

❺ガラスとケイムの間にパテを詰め、ケイムを酸化させやすいようにブラシで磨く

❻薬品でケイムを黒化させ、水洗い。そのあと磨きとからぶきを繰り返していく

「ステンドグラスは商品ではなく作品であるべき」という宇留賀正輝さん。世代を超えて受け継いでもらえる作品づくりを目指す

自宅に隣接する工房は、事前に連絡すれば見学することも可能

企業DATA

- 事業所名：㈲Glass Studio URUGA
- 所在地：〒207-0002 東京都東大和市湖畔1-910-7
- TEL：042-563-8117
- FAX：042-562-6117
- 設立：平成3年3月
- 代表者：宇留賀正輝
- 従業員数：2名
- 事業内容：建築ステンドグラス制作など
- URL：http://www.gsu.co.jp/
- E-Mail：post@gsu.co.jp

この欄にご登場を希望される事業所を募集します。ご希望の方はあんしん財団 業務広報部までご連絡ください。TEL 03-5362-2323　FAX 03-5362-2070

取材・文／遊プランニング　写真提供／㈲Glass Studio URUGA（作品写真4点）